

学生同士の切磋琢磨が 国際的視野と意欲を育てる

榊原 久孝

大学院医学系研究科(保健学)教授

グローバル人材育成の先駆け、 名古屋-延世大学間学術研究交流

名古屋大学大学院医学系研究科(保健学)では、保健医療研究の新たな発展を目指し、研究力開発型大学院教育を推進するとともに、アジア地域の保健医療系大学との連携を強め、グローバル人材の育成を推進しています。

アジアとの連携については、韓国の名門私立大学、延世大学校の保健学・看護学部との間で、2010年より大学院レベルでの学術研究交流事業をスタートさせました。以降、毎年交互に双方の大学で学術研究交流会を開き、2014年は本学で第5回名古屋-延世大学間学術研究交流会を開催。両大学から教員や学生など、約200人が参加するほどの規模に発展しています。

この学術研究交流会の最大の特長は、大

学院生による英語での研究発表です。口頭発表も質疑応答もすべて英語で行うため、学生にとっては国際学会での発表に類似した経験を積む機会となり、目覚ましい成長につながっています。グローバル人材の育成という点で先駆的な取り組みであり、本研究科(保健学)全体の国際交流を牽引する力にもなっています。

5年間の活動が実り、 共同研究を視野に交流が拡大

また、互いの研究室訪問や病院・福祉施設への合同訪問など、学生同士、切磋琢磨しながら自主的な活動を繰り広げ、交流の輪は年々広がりつつあります。もちろん教員同士の連携も深まり、回を重ねるごとに交流は密度を増しています。

こうした5年間の交流の成果と言えるでしょう。2014年11月、本研究科(保健学)は延世大学校保健科学部との間で、部局間学術交流協定を締結しました。共同研究の発展を目的

とするもので、学生間の交流から研究面での連携へと、大きな一歩を踏み出しています。

現地スタッフとの交流から学ぶ 「タイ保健医療体験入門プログラム」始動

さらに新しい取り組みとして、2014年から「タイ保健医療体験入門プログラム」が始動しています。保健に関する人材育成センターであるタイのマヒドン大学アセアン保健開発研究所の協力のもと、学生はタイ各地の医療施設や保健センターを訪問。現地の医療従事者や住民との交流を通じて、海外の保健医療事情への理解を深めています。本プログラムは始まったばかりですが、延世大学校との学術交流同様、独自の取り組みとして継続し、高い研究意欲と国際的な視野を持った人材を育てたいと考えています。

本研究科(保健学)は、今後も人材育成・研究活動の両面で国際交流を進め、世界の保健医療の進歩に貢献する保健医療学の拠点へと成長を図っていきます。

名古屋-延世大学間学術研究交流会

2010年、名古屋大学からの提案でスタート。医学系研究科(保健学)と延世大学校の保健学・看護学部との大学院レベルでの学術研究交流として、学生による英語での研究発表会を年に1回共同開催している。



タイ保健医療体験入門プログラム

2015年に始まったタイでの短期研修プログラム。医学系研究科(保健学)と、部局間学術交流協定を締結したタイのマヒドン大学アセアン保健開発研究所が共同で実施する。学生は現地の医療施設などを訪問し、海外の医療事情を学ぶ。



タイでの研修の様子

PROFILE

SAKAKIBARA, Hisataka
榊原 久孝

1953年生まれ。名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。名古屋大学医学部保健学科長などを経て、現在、名古屋大学大学院医学系研究科教授。専門分野は、公衆衛生・健康科学、衛生学。

